

令和8年度「全国学力・学習状況調査」本校の結果について

南丹市立美山中学校

令和8年4月23日(木)に3年生で実施した令和8年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校で分析をした結果、本校生徒の傾向が概ね把握できましたのでお知らせするとともに、今後、本校では、成果と課題を受けて改善活動に取り組み、生徒に「確かな学力」を身につけさせていきたいと考えています。

【1】概要について

実施日	令和8年4月23日(木)
調査内容	(1)教科に関する調査 ・国語(15問) ・数学(16問) ・英語(7問) (2)質問紙調査 ・生活習慣や学習環境に関する質問調査

【2】本校の結果について

【国語】 本校 9.6 府 9.7 全国 9.6

全体的な結果としての正答数は、全国平均とほぼ同程度だったが、府平均はわずかながら下回っている。

【数学】 本校 8.4 府 9.3 全国 9.1

全国・府平均と比較して、正答数が下回っている。

【英語3技能:聞くこと、読むこと、書くこと】 本校 3.6 府 3.9 全国 3.7

* 英語は、IRT（項目反応理論）を用いた調査であることから、設問毎に解答者数が異なるため、全体の正答数で全国・府と比較している。

全体的な結果としての正答数は、全国平均とほぼ同程度だったが、府平均はわずかながら下回っている。

教科(問題数)	国語(15 問)	数学(16 問)	英語(7 問)
京都府との比較	同程度	やや低い	同程度
全国との比較	やや高い	やや低い	同程度

平均正答数比較の基準

平均正答数	-2	-1	0	+1	+2
比較の基準	低い	やや低い	同程度	やや高い	高い

【3】学力について

国 語

(1)特徴的な傾向(全国・府平均との差が大きい領域)

○情報の扱い方

→ 必要な情報を整理・関連づける力は身についている。

●書くこと = 全国、府を下回る

●記述式 = 全国、府を下回る

→ 「考えを文章でまとめる力」に課題が見られる。

(2)評価の観点から

○知識・技能 全国、府を上回る

→ 知識・技能の観点については、全国・府を上回り、おおむね満足できる状況にあると判断できる。

●思考・判断・表現 全国と同程度、府を下回る

→ 思考・判断・表現の観点については、全国・府を下回る。記述式の設問に対しての正答率が全国、府より下回り、府とは大きな差があり、これが最も大きな課題である。

(3)授業改善の方向性

◆ 単語の分類や用言の活用など、文法事項の整理、概念化

◆ 毎時間、自分の考えを書く活動、条件付き作文

◆ 文章を根拠に説明する活動、思考を論理的に整理する活動

◆ 交流後に自分の考えの練り直し・リライト、振り返りの場面の工夫

数 学

(1)特徴的な傾向(全国・府平均との差が大きい領域)

○数と式 = 全国、府を上回る

→ 基礎的な計算や式の処理は一定定着している。

●図形 = 全国、府を下回る

●関数 = 全国、府を下回る

●データの活用 = 全国、府を下回る

→ 活用場面になると正答率が下がる。

(2)評価の観点から

●知識・技能 全国、府を下回る

→ 知識・技能の観点については、全国・府をともに下回り、学んだ知識や技能のさらなる定着が必要な状況である。

●思考・判断・表現 全国、府を下回る

→ 全国・府と大きな差があり、この改善を最重点課題として取り組む必要がある。

(3) 授業改善の方向性

◆ 数学的な見方・考え方を働かせる学習活動

(試行錯誤する場面、手がかりを基に正解への道筋を自分で見つける場面)

◆ 「なぜそうなるか」を説明する活動

◆ 途中式や考え方を書く姿勢の育成

◆ ペアで説明する活動

◆ ICT を活用した思考の可視化

英語

(1) 特徴的な傾向(全国・府平均との差が大きい技能・設問)

① 聞くこと

○「日常的な話題について必要な情報を聞き取る問題」(問題2・3)や、「話の概要を捉える問題」(問題4)は、全国・府を上回っている。

●社会的な話題について要点を捉える問題(問題5)は、全国・府を下回っている。

→ 日常的な場面で必要な情報を聞き取り、概要を理解する力は概ね身についている。

→ 話全体の要点を整理して理解する力に課題が見られる。

② 読むこと

○物語を読み、登場人物の気持ちの変化を捉える問題(問題9)は、全国・府を上回っている。

●必要な情報を読み取り判断する問題(問題7・8)では、全国・府を下回り、その差が大きい。

→ 文章全体の流れを把握する力は身についている。

→ 必要な情報を整理し、条件に応じて判断する力に課題が見られる。

③ 書くこと

○与えられた情報を基に英文を書く問題(問題11②)は、全国を上回っている。

→ 基本的な語彙や文法を活用して簡単な英文を書く力については一定の定着が見られる。

●自分の考えや理由をまとまりのある英文で表現する問題では、問題10(2)が全国・府並みであった一方で、問題12、問題13は、全国を大きく下回った。

→ 短い記述は、書くことができる。

→ 自分の体験や考えをまとまりのある文章として表現することに課題がある。

→「何を書けばよいか分からない」「英文を構成することに自信がない」といった状況も考えられる。

(2) 授業改善の方向性

「知識・技能」の定着には一定の成果が見られる一方で、既習の語彙や文法を活用し、自分の考えや理由を英文で表現する力をつけるための手立てを講じる必要がある。

◆ 「聞く・読む・話す・書く」の4技能を関連づけた言語活動

- ◆ 理由や根拠を添えて自分の考えを表現する活動
- ◆ ペアやグループで考えを伝え合い、表現を改善する活動
- ◆ モデル文を参考にしながらまとまりのある英文を書く活動
- ◆ 知識・技能の定着に向けて、単語や文法を個別に覚えるだけでなく、実際のコミュニケーションの場面で活用する経験を積み重ねたり、知識を生かす、働かせて考えたりする場面の設定などの工夫

【4】学習状況について

生徒質問紙調査結果

<本校・京都府・全国の比較：一部抜粋> %

	質問項目	本校	京都府	差	全国	差
(8)	自分には、良いところがある。	87.5	83.3	+4.2	84.0	+3.5
(22)	わからないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	79.2	76.6	+2.6	78.2	+1.0
(27)	昼休みや放課後に図書室を利用しますか。 週に1～4回以上と答えた生徒	41.7	5.1	+ 36.6	7.8	+ 33.9
(35)	PC、タブレットなど ICT 機器を授業でどれくらい使用しますか ほぼ毎日と答えた生徒	91.7	73.8	+ 17.9	55.1	+ 36.6
(47)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか。	87.5	81.3	+6.2	80.8	+6.7

	質問項目	本校	京都府	差	全国	差
(1)	朝食を毎日食べていますか あまり食べていない・食べていない	12.5	9.9	-2.6	9.1	-3.4
(4)	1日のスマートフォンや PC、ゲームなどに時間を使いますか。3時間以上と答えている生徒	70.8	55.4	- 15.4	49.6	- 21.2
(6)	学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。 全く話さないと答えた生徒	16.7	7.8	-8.9	7.0	-9.7
(23)	学校の授業以外で一日どれくらい勉強しますか。1 時間未満と答えた生徒	45.8	31.3	- 14.5	31.0	- 14.8
(23)	同質問 全くしていないと答えた生徒	16.7	9.8	-6.9	6.9	-9.8

以上の結果から、次のようなことが言える。

○自己肯定感が高い生徒が多い。

○知識を得ようとする姿勢は良く、工夫する術も知っている。

○図書室の利用頻度や授業における ICT の利活用、総合的な学習の時間の充実など学びに対する環境が整っていると言える。

- 大半の生徒は朝食を食べているが、時々食べられていない生徒が見受けられる。
- スマートフォンやゲーム機などの使用時間はかなり多い。
- 家庭で学校の勉強について全く話をしない生徒が多い。
- 家庭での学習時間も1時間未満の生徒が多い、全くやっていない生徒が府や全国に比べても多いという実態がある。

【5】今後の取組や課題の克服に向けて

今回の結果分析を通して、本校生徒の学習に対する課題を克服するために以下のような取組や工夫が必要であると考えています。

<学校での学習活動に関して>

国・数・英については、上記で各教科の授業改善の方向性に示した通りです。

他教科や教科外の学習の場において以下に示します。

- 授業の目的やゴールを明確に示すことや、授業の振り返りを充実させる。
- 自分の考えをまとめ発表したり、他の生徒と考えを交流したりする、表現力を育成する場面や機会を多くつくる。
- 知識・技能だけでなく思考判断表現についてじっくり時間をかけられるような展開を意識する。
- 総合的な学習の時間や行事を、生徒が自分たちで考え自由な発想で積極的に取り組めるような内容に変えていく。
- 生徒が思い切って挑戦し、失敗もできる安心安全な学習の場を提供する。

<家庭学習との連携>

- 家庭学習の取組を行っているが、取組内容やその実態などを家庭に伝え共に生徒へ働きかけるような工夫を行う。
- 学校の勉強のことや進路や将来について、家庭で会話ができるような情報の提供を行っていく。
- 家庭内でのスマートフォン等の使用について学校と家庭と生徒が一緒に考えられるような機会をつくっていく。
- 自主学習を奨励し、自分の興味のある内容に計画的に取り組むことで、児童の主体性を伸ばし、学習意欲の向上を図る。
- AIドリルを使用し、自分の得意分野や苦手分野を中心に自分のペースで学習を進められるようにする。